現場の声を県立高校改革に反映させよう！

高校神奈川
発行人　馬鳥　敦
編集人　岩崎　長久
横浜市西区藤棚町2の197
高校教育会館内
TEL　045(231)2479
FAX　045(231)2536
http://www.fujidana.com

「県立高校改革基本計画」県教委が公表（1／13）

県教委は12月18日の県議会文教常任委員会に「県立高校改革基本計画（案）」を報告し、1月13日の県教委定例会で「基本計画」を決定しました。

県教委が決定した「県立高校改革基本計画」は、9月に公表していた「基本計画【素案】」を大筋で踏襲した内容となっています。

焦点だった学校規模は、6月の「県立高校改革推進検討協議会」による「県立高校の将来像について（報告）」では「1学年8学級から10学級を標準とすることが望ましい」とされていました。

決定された「基本計画」では、「現行の標準規模以上にすることが望ましい」としつつも、「それぞれの学校や生徒の実態に応じた学校規模とすることを検討します」となりました。

県立高校の配置の方向については、「適正な配置」との表現で、具体的な数は記載していません。また、インクルーシブ教育については、「実践推進校」を指定するとともに、文科省研究開発指定校（釜利谷・綾瀬西）の研究成果を活用するとしています。

この間、県教委はフォーラム（11／8）を開催して意見募集（～11／10）を行い、神高教は組織的に対応しました。さらに、神高教は11月28日に担当局長に対して「基本計画【素案】に関する要請」を手交し、「全日制高校進学率の拡大をめざし、県立高校定員枠を拡大すること」を基本として以下の事項を申し入れました。

・学校や生徒の実態に応じた学校規模とし、学年8～10学級を標準としないこと。
・様々な課題をもつ生徒が在籍する学校における30人以下学級を実施すること。
・耐震補強の早期完結、老朽化対策の推進、特に専門高校の施設・設備の改善。
・支援の必要な生徒への教育条件整備、総合的な支援等を策定すること。
・「組織的授業改善」の見直し。
・学校運営組織の改善。
・養護教諭の複数配置。
・キャリア教育・職業教育に労働教育を位置づけること。
・図書館機能の充実。

今後、組織内において、「基本計画」についての学習・討議をすすめ、2015年度中に策定される予定の「実施計画」に、学校現場の視点から意見を反映していきます。

〈詳細は「職場討議用資料14－29」を参照〉

「基本計画」に対する神高教執行委員会の見解

○高校改革の基本的な考え方を「生徒の学びと成長にとって何が必要かという視点を最優先にする」としたことは評価できる。
○耐震・老朽化対策を推進し、高校改革の中で新たな校舎の建設や建て替え、専門教育の施設・設備の充実・改善などの教育インフラの整備を行うことを明らかにしたことは評価できる。
○「全日制進学率の向上に向けて取り組む」と明記したことは評価できる。
○高校改革推進検討協議会の報告は、標準規模を1学年8学級から10学級に拡大することが望ましいとしたが、「各学校や生徒の実態に応じ」「現行の標準規模以上にすることが望ましい」という記載に改めたことは評価できる。
○本県の支援教育のとりくみをふまえ、県立高校におけるインクルーシブ教育の「全県的な取組みの展開について検討する」としたことは評価できる。一部の高校のとりくみにとどまらないよう留意することが必要である。
○現在展開されているトップダウンの「組織的授業改善」を改革の方向に位置づけたことは問題である。教職員が専門性・主体性・協働性を基盤にした授業改善をすすめていく必要がある。

●「教職員の多忙化とメンタルヘルス」（1／17）

1月17日の分会代表者会議終了後、「健康問題学習会」が行われました。

講師は、労働衛生コンサルタントで精神神経科医師の牧由美子さんで、分代の後でしたが、メンタルヘルスについて、大勢の方が真剣に耳を傾けました。牧先生は、日教組の産業医も務められ、『月刊JTU』に連載記事があります。柔らかな語り口で、「うつ病」と「うつ状態」の違いなど、とても役立つ話を伺うことができました。

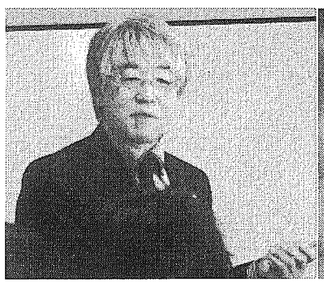
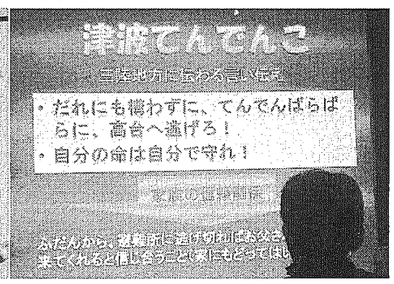
●三浦半島・教育文化フォーラム（1／24）

1月24日に、高校教育会館主催で神高教が後援する「教育文化フォーラム」が、ヴェルク横須賀で開催されました。

講師は、岩手県釜石市立釜石小学校・前校長の渡邉真龍さんで、「『釜石の奇跡』といわれた子どもたち」という演題で、3.11当日のことを語っていただきました。

80人の参加者（一般51人、神高教組合員29人）があり、会場は満席になりました。

最後に流れた井上ひさしさんが作詞した釜石小学校の校歌「いきいき生きる」がとても印象的でした。

2014神高教 沖縄ツアー報告（12/20～21）

「沖縄研修旅行」に参加して

2007年にスタートした「神高教沖縄ツアー」が8回目を迎えました。今年度は、13人の若手組合員が12月20日～21日、平和学習を目いっぱい詰め込んだ1泊2日のツアーに参加しました。1日目は、参加者より「修学旅行の下見としてとても勉強になった」と好評な南部戦跡めぐり。そして、夜は沖縄高教組の青年部との交流会。2日目は、辺野古など基地巡り。2日間で沖縄の過去と今を学び、未来を考えるツアーとなりました。

沖縄は町を歩いていても楽しく、食事も美味しく、ホテルも素晴らしく、神奈川高教組の人たちとの交流もとても楽しめ、さらには様々な記念館、美術館、ガマ等内容の濃いスケジュールで勉強になりました。いろいろな資料も手に入れることができました。こんな研修旅行に参加させていただき本当に感謝しております。

ただその中でも一番印象に残ったのは沖縄の人たちとの出会いです。沖縄高教組の2人の仲里さん。バスガイドのガッキーさん。佐喜眞美術館の館長の奥さま。そして辺野古への基地移設の反対運動をしている方々。歴史だったり現在の状況だったりを考えると大変なことも多いと思います

沖縄のことで協力できることは協力していきたい

が、彼らはとても元気で明るく穏やかでした。青年部長の仲里さんの「僕たちと反対の意見も大切です。否定しないでください」という内容の発言が印象に残っています。僕も、彼らのように明るく教育や組合活動に貢献しつつ、沖縄のことでも協力できることは協力していきたいと思いました。